

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「自分の考えを相手に伝えるように書く」もしくは「条件にそって文章を書きなおす」という記述問題の平均正答率が低い。算数では、「数と計算」や「データの活用」の平均正答率が低い。
- 問題解決に向けて、自分の考えを整理し、目的や意図に応じて伝えたいことを分かりやすく表現することが苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 児童が主体的に学習に取り組む時間の確保や、「分かった」と実感できるようにするための手だてや指導の工夫が不十分である。
- 自分の考えを相手に伝える方法（文章の書き方、話し方や聞き方など）を児童に教え、それを活用する場の設定や評価を繰り返し行い、伝える力を高める必要がある。
- 本時のめあてに対する振り返りを行う時間を確保し、次時への目的意識をもたせることが十分でない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 「板橋区授業スタンダード」や「桜川学習スタンダード」に基づいた授業を行い、基礎・基本の学力の確実な定着を目指す。また、教員の共通理解のもとに学習指導の統一化を図り、学習に対する児童の心理的安全性を高められるよう、学びの環境を整え、授業改善を推進する。
- 放課後の時間等を活用して全学年補充教室を行い、ユニバーサルデザインの視点をもちながら個に応じた指導の充実を図る。
- 総合的な学習の時間を軸とした探究的な学習活動を重視し、児童の課題を見付ける力、課題解決に向けた見通しをもち協働して取組を進める力、情報を活用して課題を解決する力の育成を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の、学習の流れを定着させる。また、めあてを明確化し、めあてに対する振り返りの時間を十分に確保する。	○児童のつまずきを考え、基礎的読解力の6分類等の視点をもった学習活動を取り入れる。また、「INPUT→THINK→OUTPUT」の学習過程を意識した授業展開を行い、特に児童が主体的にOUTPUTする場を確保する。	○カリキュラム・マネジメントの視点をもち、各教科等の学びを、「総合的な学習の時間」の学習活動につなげられるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「桜川 学びのエリア」として、総合的な学習（探究的な学習）の研究を深め、9年間の活動に系統性をもたせながら、計画的に指導する。特に、児童・生徒の課題を見付ける力、見通しをもって協働学習を進め課題解決していく力の育成を図る。 ○城北中央公園等の豊かな自然環境や地域との交流がある環境を生かし、「SDGs」や「地域」に着目した生活科・総合的な学習の時間の単元学習に取り組む。	○単元指導計画を立てる段階から、各教科等の学習内容との関連性を意識して学習指導を行うことで、多教科にわたる、児童が学習課題を見出し探究する力の育成を図る。 ○総合的な学習の時間や生活科を中心に地域人材・地域教材を活用した授業づくりを行うことで、地域に対する親しみと愛着（郷土愛）をもつ児童の育成を図る。	○児童の思いや考えを表現したり、情報を分かりやすく整理したりするために、タブレット端末型のICT機器を活用する。 ○ミラット等の活用による相互評価の効率化や、アウト機能を活用した授業づくりを進める。 ○GIGAスクール推進支援員との連携を図り、ICT機器を生かした教材の開発や実践を行う。また、ICTに関する校内研修を設定し、教員のICT機器操作・活用能力の向上を図る。